

令和7年度

教職課程

自己点検・評価報告書

広島国際大学

令和8年5月

広島国際大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・免許教科）一覧

学部	学科・専攻	中学校一種	高等学校一種	その他
健康科学部	医療栄養学科 ※医療栄養学部 医療栄養学科を改組 (2020年4月)	—	—	栄養教諭一種
	医療福祉学科 ※教職課程学生募集停止 (2024年4月)	—	福祉	—
健康スポーツ学部	健康スポーツ学科	保健体育	保健体育	—

大学としての全体評価

教職課程教育の目的・目標を、ディプロマ・ポリシー等を踏まえて設定し、育成する教員像を教職員間で共有するとともに、学生へ周知している。また教職課程の体制として、教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員の協働体制を構築している。また、将来教職を担うべき学生を適切に確保・育成し、希望する学生が円滑に教職に就けるよう、学生の適性や資質に応じたキャリア支援を行っている。

教職課程のカリキュラムについては、各学科の特性を生かしながら適切に編成・実施している。教育の基礎的理解に関する科目等のカリキュラムについては、コア・カリキュラムを軸としながら各教員の実務経験等を盛り込み、効果的に実施している。さらに、県や市町との教育委員会等と連携するとともに、近隣の学校や地域住民とも連携・協働し、学生の実践的指導力を育成している。

以上のように、全体として本学の教職課程は概ね適切に運営されていると評価している。昨年度課題として挙げた事項についても改善するよう取り組んでおり、次年度以降もたゆまぬ改善と点検・評価を行うことにより、よりよい教職課程を構築し、優れた教員を育成していく所存である。

広島国際大学

学長 清水壽一郎

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	9
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	18
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	22
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	24

I 教職課程の現況及び特色

1 教職課程の現況

- (1) 大学名：広島国際大学
- (2) 学部名：健康科学部、健康スポーツ学部
- (3) 所在地：①健康科学部（医療福祉学科）／健康スポーツ学部
 広島県東広島市黒瀬学園台 555－36
 ②健康科学部（医療栄養学科）
 広島県呉市広古新開 5－1－1
- (4) 教職課程の履修者数及び教員数

① 教職課程の履修者数

令和7年度（令和7年11月28日現在）

学部	学科	教科	免許種	学 年	教職課程履修者数	備 考
健康科	医療栄養	—	栄養一種	1年	教職概論：10名 学校教育心理学：11名 教育原理：11名	※希望者が明確でないため、科目ごとの履修者数を示す
				2年	4名	—
				3年	4名	—
				4年	8名	—
	医療福祉	福祉	高校一種	1年	—	—
				2年	—	—
				3年	1名	—
				4年	3名	—
健康スポーツ	健康スポーツ	保健体育	中学一種 高校一種	1年	教育原論：73名 教職概論：73名	※希望者が明確でないため、科目ごとの履修者数を示す
				2年	教育制度論：54名 学校教育心理学：55名 特別支援教育論：55名 教育方法論：56名 生徒指導論：55名	※希望者が明確でないため、科目ごとの履修者数を示す
				3年	教育課程論：42名 総合的な学習の時間の指導法：41名 特別活動の指導法：50名 教育相談：42名 進路指導・キャリア教育論：41名 道徳教育理論・指導法：50名	各科目履修者のうち、教育実習内諾手続者は41名
				4年	36名	—

② 教員数

学科名等	教授	准教授	講師	助教	その他
医療栄養	1	1	1	1	
医療福祉	4	4	2	1	
健康スポーツ	5	3	3	1	
教職教室	3	1	1		
備考：学科教員数は教職教室教員を含む。					

(5) 卒業者の現況

課程等（通学・通信・大学院） 令和6年度卒業生（令和7年5月1日現在）

教科	免許種	就職先状況												
		認定こども園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		
		正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	
-	栄養 一種													
福祉	高校 一種									1				
保健 体育	中学 一種						2	1	5					1
保健 体育	高校 一種									2	3			

2 特色

本学は、「誰もが健やかで安心できる社会の実現」を目指しており、教員養成もその理念に密接に関連している。教員養成は、全学組織である教職教室を中心に、教職課程を開設している学科と協働しながら行っている。

教職課程を開設している学科では、それぞれの特性を生かし、「大学が独自に設定する科目」を適切に設定して専門教育の充実を図ること等により、教職を目指す学生がより広い視野をもって学修を進められるよう配慮している。一方、管理栄養士やNSCA-CPT（認定パーソナルトレーナー）等の国家試験・民間試験を受験する学生にとっては、教職課程を履修することの負担感は大いとも考えられる。このことから、教職課程における学位プログラムと内容的に関連する教職科目について整理を行い、2027年度より一部の科目を専門教育科目として配置し、卒業要件単位に算入することを機関決定した。

それぞれの分野の知見を深めることにより、学生が将来教職に就いた際、教科指導のみならず、キャリア教育や総合的な学習の時間等、児童・生徒に対する教育の質的向上にもつながっている。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

教職課程教育の目的・目標を、ディプロマ・ポリシー等を踏まえて設定し、育成する教員像と合わせ、教職員間で共有するとともに学生に周知している。

〔現状〕

学校法人常翔学園の建学の精神は「世のため、人のため、地域のため、理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人を育成する」にある。広島国際大学における教育は、この建学の精神に基づき、命の尊厳と豊かな人間性を基本理念とする、新しい時代が求める専門的な知識と技術の修得を進めるとともに、健康・医療・福祉の分野において活躍しうる職業人を育成することを目的としている。

本学の教員養成は、健康スポーツ学部健康スポーツ学科・健康科学部医療福祉学科・健康科学部医療栄養学科において行っている。これらの学科では上記の建学の精神や教育の基本方針を踏まえながら、対人関係能力に優れた、現場で活躍できる高度専門職業人(プロフェッション)を育成する点に基盤を置いている。

教職課程設置学部・学科における教師教育では、以下の点に重点を置きながら、高度な資質をもち教育の現場で活躍できる教員の養成を目的としている。

(1) 教員養成の理念

(ア) 人権を尊重し、人の悩みや不安をともにし、人間の成長に主体的にかかわることに喜びを見いだす熱意や使命感に裏付けられた教育者たるにふさわしい豊かな人間力を育成すること。

(イ) 各学部・学科における専門教育と教職に関する専門教育を有機的に関連づけながら、健康・医療・福祉系総合大学としての特色を生かした専門性及び教員として様々な課題をもつ子どもと向き合い、具体的かつ効果的な指導や援助ができる実践的指導力を育成すること。

(ウ) 自己を教育者として、また人間として、生涯にわたって学び高めていく自己教育力を育成すること。

(2) 養成する教員像

- 高い倫理観と豊かな人間性をもっている。
- 子どもに対する教育的愛情と教育に対する使命感をもっている。
- 専門性を発揮し、的確に職務を遂行できる。
- 確かな授業力を身につけている。
- 豊かなコミュニケーション能力を有している。
- 新たなものに積極的に挑戦する意欲をもっている。
- 他の教職員と連携・協働し、組織的に職務を遂行できる。
- 社会や子どもの変化に柔軟に対応できる。

このような教員養成の理念および養成する教員像は、本学のアドミッション・ポリシーの延長線上にもある。

【アドミッション・ポリシー】

<p>健康科学部・ 医療栄養学科</p>	<p>「食と栄養」に興味を持ち、「食と栄養の力」で人々の健康の維持・増進、体力・運動能力の向上、病気の予防・改善を図り、医療、スポーツ、福祉、介護などの幅広い分野で活躍したい人。特に、管理栄養士に対する興味と、その専門的な知識の修得に意欲がある人を歓迎します。</p> <p>入学前に修得が望まれる知識・力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとの健康を願い、またひととのコミュニケーション力向上に取り組む姿勢。 ・文章を的確に理解し、論理的な構成に基づいて文章の作成ができる力。 ・基礎的な数的処理能力および自然科学の知識。
<p>健康科学部・ 医療福祉学科</p>	<p>人が人を支援する対人援助に興味があり、思いやりを持って人に接することのできる人を歓迎します。</p> <p>入学前に修得が望まれる知識・力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を思いやり共感できる力。 ・文章を適切に読解する力。 ・自分の考えを文章化する力。 ・社会の動きに関心を持ち、情報収集する力。
<p>健康スポーツ学部・ 健康スポーツ学科</p>	<p>健康・運動・体育・スポーツに関する専門的な知識と技術の修得を目指し、社会の様々な環境において協調性と意欲を持って人と接することのできる人を歓迎します。</p> <p>入学前に修得が望まれる知識・力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康・運動・体育・スポーツについて興味・関心を持ち、意欲を持って取り組む姿勢。 ・積極的に他者と協力し、物事に関わる力。 ・基本的な読解力と表現力。

また、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力とも密接に関連している。

【ディプロマ・ポリシー】

1. 命の尊さを理解し、ひとを思いやる豊かな人間性を持つ。
2. 地域の多様な価値観を理解し、様々な人々とコミュニケーションを図ることができる。
3. 専門的な知識や技術を身につけ、社会で活かすことができる。
4. 自ら問題を発見し、他者と協力しながら問題を解決できる。
5. 生涯にわたり主体的に学び続け、新しい時代を創造できる。

すなわち、「命の尊さを理解し、ひとを思いやる豊かな人間性」は、教育者としての高い倫理観と豊かな人間性の基盤となるものであり、「地域の多様な価値観を理解し、様々な人々とコミュニケーションを図ることができる」力は、子どもや保護者、他の教職員等と信頼関係を構築し、協働して教育活動を推進するために不可欠な能力である。また、「専門的な知識や技術を身につけ、社会で活かすことができる」力は、教科および教育に関する専門性を発揮し、的確に教育実践を行う力につながるものである。さらに、「自ら問題を発見し、他者と協力しながら問題を解決できる」力は、教育現場における様々な課題に主体的かつ協働的に対応する力の基礎となり、「生涯にわたり主体的に学び続け、新しい時代を創造できる」姿勢は、教育者として自己研鑽を継続し続ける資質を支えるものである。

これらの教職課程教育の目的・目標は本学ホームページ「教職課程について」において公開し共有している。また、目的を達成するため、専門科目担当の教員、教職科目担当の教員、教務担当の事務職員が、教職課程委員会等で密接に連携し教職課程教育の目的・目標を共有している。さらに1年次に配当されている「教職概論」において、学生に詳しく説明している。

〔優れた取組〕

本学の教員養成は、上記の建学の精神や教育の基本方針を踏まえながら、対人関係能力に優れた現場で活躍できる知的専門職業人(プロフェッション)を育成する点に基盤を置いており、それらを受けて育成すべき教員像がある。すなわち、本学の教育方針の延長線上に教員養成があり、理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる教員の育成を目指している。また、本学では近年の地球温暖化等で激甚化する広域災害化にも対応できるよう、地域創成と危機管理や専門職連携等の教育を行い、知識だけではなく、AEDを含む一次救命処置の実技を活用して地域社会と周囲の人々の命を守ることができる人材の育成にも取り組んでいる。

さらに、本学では、教職課程を設置している健康スポーツ学科、医療福祉学科、医療栄養学科共通に、(1)「教職オリエンテーション」での教員に求められる資質・能力教育実習、教職課程履修等の指導、各年次における履修から教育実習に至るまでの指導、(2)「履修カルテ」を用いた履修指導、(3)「教職教室」担当教員や各学科の担当教員による履修や教育実習の個別指導、教員採用試験に至るまでのキャリア教育を実施し、教職課程教育の目的・目標の共有を図っている。

〔改善の方向性・課題〕

①教職員間での共有の度合い、②学生の教職課程教育の目的・目標の定着の度合い、以上を確認をしていくことが課題である。課題の解決のためには、①については教職員間での密な連携・情報交換が必要となり、そのためには教職員の業務量を平準化させる必要がある。このため、令和7年度より教職教室の所属教員を増員した。②については「履修カルテ」を用いた履修指導がベースとなるが、教職教室と学科間における連携・情報共有が十分でないことから、オンライン化の検討を本格化させた。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-1-1：広島国際大学ホームページ「教職課程について」
- ・資料1-1-2：広島国際大学ホームページ「ディプロマ・ポリシー」
- ・資料1-1-3：広島国際大学ホームページ「カリキュラム・ポリシー」
- ・資料1-1-4：広島国際大学ホームページ「アドミッション・ポリシー」

基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員の協働体制を構築している。

〔現状〕

本学における教職課程の教員の配置は、文部科学省「教職課程認定基準」に定められた必要専任教員数を充足している。

教職課程を適切に実施するため、次のように、教職課程委員会・教職教室を設置している。

(1) 教職課程委員会

①設置の目的

教員に必要な専門的知識と能力の育成、教育現場で採用当初から即戦力となりうる資質の育成、教育に情熱をもった教員を育成するために必要な全学的協力体制により教員養成を効果的に行うことを目的としている。

②構成員

教職主任、教職課程を設置する学科の学科長、教育・学生支援機構課長、教職に関する科目担当教員（1名）、その他必要に応じて学長が任命した者（若干名）からなる。教職課程委員会の構成員以外の教職員にも教授会、学科会議等において適切に情報共有している。

(2) 教職教室

①設置の目的

教職課程の実践的な運営、教職課程の学生の指導全般を行う。具体的には、教職課程委員会のもと、教職課程のカリキュラムの遂行と調整、学科との連絡を行っている。

②構成員

教授 3 名（うち 1 名は教職主任）、准教授 1 名、講師 1 名の計 5 名からなる。

このうち

2 名は、学校現場等での実務経験をもっている。教員の業績等に関しては、本学のホームページ「研究者要覧」で確認できる。

〔優れた取組〕

健康スポーツ学科の教員 3 名は、小学校・中学校・高等学校において教諭としての勤務経験を有している。また、教職教室の教授 1 名は、中学校および高等学校等において授業や学級担任をはじめ、研究主任、生徒指導主任、道徳主任、特別活動主任等を長年にわたり担当した経験を有しており、講師 1 名は教育委員会での実務経験を有している。

教科書等を活用した指導は、学生の知識の充実に有益である一方、教育現場の臨場感を踏まえた対応や、実際に求められる姿勢を理解することは容易ではない。そのような中で、これらの実務経験は、教育現場の実情に即した指導を可能にするとともに、教職課程委員会および教職教室の運営にも有効に活かされている。

〔改善の方向性・課題〕

小学校・高等学校における教育支援活動への参加、具体的には教育委員会との連携の下、放課後の学習支援、ICT 機器の取り扱いのアドバイス、学校行事への参加、あるいは学生が開発した道徳教材を用いて当該学生が小学生に担任教諭とともに授業を行うなどへの積極的関与が課題である。課題の解決のために、小・中学校や高校に対して、学生が教員と共に運動会の指導やダンス・陸上・パラスポーツの指導等を行うといった対応を講じている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1 - 2 - 1 : 広島国際大学ホームページ「教職課程について」
- ・資料 1 - 2 - 2 : 広島国際大学教職課程委員会規定

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

基準項目2-1-①

アドミッション・ポリシーに沿って学生の募集や選考を行うとともに、教職を担うにふさわしい学生を確保し育成するため「養成する教員像」を掲げ、ホームページに掲載している。また、「養成する教員像」の具体的な実現に向けて、教職課程履修希望者に向けてガイダンス等で分かり易く解説している。

〔現状〕

入学希望者・入学者に対する本学の教職課程に関する情報提供は、大学全体や各学科のアドミッション・ポリシーとともに、本学のホームページや印刷媒体を通して公開することにより行っている。学生の募集や選考は、アドミッション・ポリシーに沿って実施している。また、本学の教員養成の目標は、アドミッション・ポリシーの延長線上にあり、入学時の学科ごとのガイダンス等で、アドミッション・ポリシーを踏まえ、教職に関するオリエンテーションやキャリア指導を行っている。教職教室では、アドミッション・ポリシーに加えて基準項目1-1で示したように「養成する教員像」を掲げ、これらについて教職を目指す学生に事前にガイダンスを行ったうえで、教職課程の履修を受け入れている。

〔優れた取組〕

「養成する教員像」を掲げ、教職を担うべき適切な学生の確保・育成の方針としている。本学の教員養成の理念や「養成する教員像」等は、大学全体の教育方針や各学科のアドミッション・ポリシーと連携・対応している。

〔改善の方向性・課題〕

優秀な教員志望者を確保するために教職の魅力伝えることが課題である。課題の解決のためには、教職ガイダンスや教職科目の授業の中で卒業生の講話を行うなど、教職教育の一層の充実を図る必要がある。そのため、現在では、複数の県に合格し、模範的な教員となった卒業生の教育実習先の学校から、教育実習中の研究授業の映像や学生の講話の提供を受けて、教職の授業の中で毎年度活用している。今後は、卒業生自身が学校現場での経験をもとに後輩に語る助言の動画教材の充実も図っていきたい。

基準項目2-1-②

「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定している。

〔現状〕

本学の教職課程では、教職課程履修を開始・継続するために、次の基準を設定している。

教職課程の履修開始にあたって、教職に関するオリエンテーションを行い、「養

成する教員像」を目指して努力を継続する意思のある学生を受け入れている。この取り組みにより、学生側、教職員側とも目指す姿という目標が具体的かつ明確となる。さらに、履修継続するために各自が所有する「履修カルテ」を用いて、教職科目取得状況を含めた自らの資質の振り返りを各学期に実施しており、記載された内容から個々の学生の資質・能力の伸長を確認して次年度の指導に活かしている。具体的には、1年次は教職への動機づけを中心に、面談を行いながらカルテを作成している。2年次は、教職への志望が確かなものであるかを確認しつつ、カルテを用いて指導している。3年次は、翌年の教育実習に向けて十分な準備ができるよう、カルテを用いて指導している。4年次は、教育実習はもとより、教職に向けたモチベーションを高めるため、カルテを用いて指導している。また、教育実習・栄養教育実習の履修については、事前に教職実践演習を除く全ての教職科目の単位の取得がなされるよう、強く指導している。

〔優れた取組〕

本学の教職課程の継続にあたっては、各学期に履修カルテを活用して履修状況の振り返りを行い、個々の学生自らの資質・能力の伸長を確認している。

〔改善の方向性・課題〕

上記の取り組みの中で、教育実習・栄養教育実習の履修に際して、3年次までに履修すべき教職科目すべての単位を修得すること等を教育実習・栄養教育実習履修条件の「基準」として明文化していなかったため、弊害を避けるために、履修条件を教育実習の手引きやシラバスに明文化した。

基準項目 2-1-③

「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて当該教職課程に即した適切な規模の履修生を受け入れている。

〔現状〕

教職オリエンテーション等を行い「養成する教員像」について説明した上で、それに向けて努力する意思をもつ学生を、教員免許種ごとに指導が可能な人数を設定し、教職課程の履修生として受け入れている。この際、担当教員の構成、実習校の確保状況、各学科カリキュラムとの関係等から適正規模を設定している。医療福祉学科は若干名、医療栄養学科は上限10名程度、健康スポーツ学科は約40名である。このことにより、特に問題なく適切な規模の人数を維持し教職課程の運営が行われてきていると認識している。

〔優れた取組〕

教員免許種ごとに教職オリエンテーション等を行い、「養成する教員像」について説明した上で教職に対する理解を促し、さらに教職科目の授業においても自己の適性について深く考察させ、広い視野から職業を選択することを促している。その上で、教職に向けて努力する意思をもつ学生が教職課程を履修し、教育実習の受け入れ校を確保する上で適切な規模の履修生数を維持している。

〔改善の方向性・課題〕

教職に就きたいという意思をもつ学生に対して、可能な限り受け入れる方向を今後も維持させることが課題である。課題の解決のためには、実習校の確保及び大学と実習校との良好な関係を堅持することが必要である。このことから、実習生を通して実習校と緊密に連携するとともに、実習校に教員が実際に訪問し、実習校の実情の把握、要望のヒアリング等、教員養成について相互理解を図ることを心掛けている。

基準項目2-1-④

「履修カルテ」等を活用し、学生の適性或資質に応じた教職指導を行っている。

〔現状〕

本学の教職履修指導の状況は、次のとおりである。

- a. 「教職課程の手引き」を作成し、この冊子を用いて「教職オリエンテーション」や「教職ガイダンス」を年2回のペースで行っている。冊子を用いて本学の教職の目的や教職履修指導を実施し、さらには、教育実習の心得や教員を志す心構え等を指導している。
- b. 「履修カルテ」を用いて、教員として身につけるべき必要な知識技能・態度について、総合的に把握させるとともに、履修状況と学修成果の確認を行っている。その上で履修者自身が自己理解・自己評価をするよう指導している。
- c. 教職課程履修生が集い、随時、教員の指導・助言や学生相互間の協働学修が行えるスペースとして「教職センター」を各キャンパスに開設している。そこには教科書や指導書・教材・教員採用試験のための問題集や教育雑誌等も備えており、学生が授業や教育実習に備えて、いつでも閲覧・使用し学修に活用できるように整えている。

〔優れた取組〕

「教職課程の手引き」「履修カルテ」及び「教職センター」を活用し、学生の適性或資質に応じてキャリア意識を育成し自律的に学修を進めることができるよう促している。

〔改善の方向性・課題〕

履修カルテの活用を一層進めるために、学生や教職員がシームレスに履修カルテの内容を確認できる環境を構築することが課題である。課題解決のためには履修カルテのオンライン化が必要となるが、運用上の問題がある（費用面も含む）。一方、紙と鉛筆を用いてじっくりと考えて振り返る形式を取ることによって深く考察できる可能性も感じていることから、しばらくは紙ベースで運用しつつ、オンライン化も継続して検討を進めることとした。

今年度については、まず費用面の問題を解決できるシステムの模索から着手し、本学が既に導入している学修成果可視化システムのオプション機能を活用することがその解決策となり得ると判断した。また、履修カルテの内容の見直しにも着手し、見直した履修カルテとオンラインシステムとの適合性について、システム会社と協議を行った。そ

の結果、教員・学生ともに使い慣れたインターフェースであり、かつ履修カルテで求められる内容の入力にも対応可能であることが確認できたことから、次年度より本システムへの移行に向けた検討を本格的に進めることとした。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：履修カルテ
 - ・資料2-1-2：教職課程の手引き
 - ・資料2-1-3：2025 広島国際大学入試ガイド
 - ・資料2-1-4：広島国際大学ホームページ「教職課程について」
 - ・資料2-1-5：学校法人常翔学園ホームページ「キラリ*Josho note」
(卒業生紹介)
 - ・資料2-1-6：栄養教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習（栄養教諭）シラバス
- ※教育実習の手引きは「資料2-2-1」

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

基準項目2-2-①

学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。

〔現状〕

本学の教職履修生に対する教職に就こうとする意欲や適性については、次のような指導により把握している。

1年次の最初に、教職オリエンテーションや授業科目「教職概論」の中で「養成する教員像」を説明し、教職に対する自覚と責任、意欲喚起への指導をしている。

2年次以降では以下のような取り組みを行っている。

- ① 地域の小・中・高等学校における「学校ボランティア」を推奨し、教職に対する理解と自己の適性について考える指導をしている。
- ② LMSを活用して道徳や特別活動、教科や食育の名人の授業や教育における今日的課題に関する理解を深め、当事者の疑似体験を行う等、教員に求められる資質の涵養や教育実践への意欲喚起等の指導を行っている。
- ③ 「教育実習報告会」、「栄養教育実習報告会」を実施し、実習に対するレディネスや教職に対する意欲を高める指導を行っている。
- ④ 採用試験に対応した指導を通じ、教職に対する意欲喚起、自己理解の深化、キャリア意識のさらなる涵養を促している。

〔優れた取組〕

「教職概論」等の授業の中で、教員としての適性を自己評価する機会を設けている。具体的には現職教員やそれに関わる方を「ゲストティーチャー」として招き、講話やグループワークを行い、学生に多面的・多角的な視点をもたせている。

また、教職を志望する学生に「体験」「交流」等の教育に関するボランティア活動に積極的な参加を通して、教育について、また教員志望の自己の意識を深めて、考え方や感じ方を問い直している。

〔改善の方向性・課題〕

学校ボランティアや教員採用に係るキャリア教育を通じて、教員としての適性をより深く自己評価させることが課題である。特に、学校ボランティアについてはコロナ禍により減少していたため、回復させる必要がある。このため、小・中・高等学校への出前授業に教員と学生を積極的に参加させるようにしており、今後は、国家試験にも注力する必要がある医療栄養学科においても、学校ボランティアを充実させたいと考えている。

基準項目 2 - 2 - ②

学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。

〔現状〕

本学の教職履修生に対するキャリア支援として、広島県教育委員会・広島市教育委員会による「広島県・市教員採用試験説明会」を学内において開催し、あるいは学外の説明会への参加を促している。また、個別指導を含め、教員採用試験受験に関する指導・助言を実施している。また、正課外の学修として、採用試験に対応した講座、ゼミナール等を実施している。

〔優れた取組〕

キャリア支援に関しては、教職課程開設学科、教育・学生支援機構キャリア支援係、教職教室が連携し、随時行っている。また、教員採用試験受験についての指導・助言は、正課、正課外を含めて随時行っている。

具体的には、教職教室においては所属教員による応募書類、作文、面接、模範研究授業のビデオ教材の配付、また、授業期間中一週間に1度の割合で教員採用試験の問題演習や面接対策を行い、春休みと5月連休中には実技や問題演習を行っている。さらに、1次試験前、2次試験直前の不定期に所属教員による採用試験対策講座を行っている。

健康スポーツ学科においては、春休みや夏休みなどの長期休暇期間に学科教員や教職担当教員による特別講座を週2日程度開催している。また、専門の企業による特別講座（面接対応など含む）や模擬試験を実施している。

医療栄養学科においては、正課外の「教員採用試験対策講座」を教職教室にて年10回程度行っている。2024年度からは「3年次チャレンジ受験」対策として3年次生も参加している。当該講座について、2025年度は4年生4名×10回、3年生1名×10回行った。特に受験前、前期を中心に、教職教室教員（情報提供・教養面）・「栄養教諭」資格保持者の教員（実践面）についてサポートを行っている。

〔改善の方向性・課題〕

正課外で行っている指導については、正課内への取り込みも検討しつつ、今後さらに推進する方針としたことから、健康スポーツ学科においては、県・市町の教育委員会等に依頼し、正課内において指導主事や現職教員に「ゲストティーチャー」として特別講義を実施した。1年生は5回で7名、2年生は4回で4名、3年生は5回で14名、4年生は5回で5名と多くの方にそれぞれの専門に関する内容で実施した。ワークシートの感想からも好評であり、社会に開かれた教育課程として取り組むことができたと捉えている。

また、教員採用試験対策として、計画的な学習会を実施し、学生の模擬授業や面接練習等に取り組んだ。教員となった卒業生や現職教員も大学に来ていただいて指導を受けながら教員としての意識を高めることができた。

基準項目 2-2-③

教職に就くための各種情報を適切に提供している。

〔現状〕

全国各地の都道府県・市、私学協会等の教員募集や、予備校等の教員採用試験対策講座等の情報について、「教育・学生支援機構キャリア支援係」「教職センター」における資料閲覧、学習管理システム（Learning Management System；以下LMSと略記）、「広国ポータルサイト」等の電子媒体による提示、加えて各担当教員の研究室前の紙媒体掲示等により行っている。

〔優れた取組〕

公務員の採用情報は、一般的に採用を希望する学生が自ら多岐にわたり検索し、入手する必要がある。しかし、本学では多くの時間と労力を費やす前に十分な情報提供を行う体制を整えており、教職を目指す学生は、いつでも自身のニーズに応じたキャリア支援を受けることができる。これにより、学生が主体的な情報収集に過度な負担をかけることなく、早期から進路選択に専念できる環境が整備されている。

〔改善の方向性・課題〕

教員採用試験の早期化等、変化する採用環境に適切に対応していくことが課題であったことから、子供に対する主体的かつ対話的で深い学びを低年次から考えて実践する教育を徹底し、学生自身にその学びを作る心構えを持たせるように指導している。

基準項目 2-2-④

教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。

〔現状〕

学生の意欲や適性に応じて、適切な規模の学生数を受け入れて指導をしている。

教員就職率を高めるため、正課内外で採用試験に対応した指導を実施している。

これら教職指導のために必要な資料（教員採用試験問題集・教員採用試験参考書・教育辞典・教育雑誌等）は、「教職センター」や教員のゼミ室等に備えており、教員採用試験対策指導など個別指導及び集団指導を実施している。

また、LMS を活用して課外学修講座「教職特別講座」を開設し、教職課程を俯瞰的に眺め学修できる教材や、指導案等の資料、教員採用試験対策等の様々な教材を用意している。学生は、このような教材を活用し、教員採用試験における筆記試験対策や面接対策の学修を自主的に行っている。

さらに専任教員による課外講座として、長期休暇中等に教員採用試験受験に向けて、筆記試験や個別・集団面接の指導を行っている。

〔優れた取組〕

学生間の教え合いによる学修、すなわち「主体的・対話的な深い学び」を推進している。LMS を効果的に活用し、あらゆる時間にあらゆる場所で学修が遂行できるように環境を整備している。

〔改善の方向性・課題〕

学生間の教え合いの促進が課題であり、課題解決のためには、今後、ピアサポートクラブのような形で組織化し、活性化を促していく必要がある。このことから、まずは学生同士の教え合いができる環境を用意するとともに、教職センターやゼミ室等を利用できる時間を増やしている。

基準項目 2 - 2 - ⑤

キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。

〔現状〕

学外との関係組織と連携し、次のように多様な人材等との連携を図っている。

- a. 「教職オリエンテーション」で広島県教育委員会や広島市教育委員会から講話をいただき、教員を目指す志気や自覚を高めることのできるキャリア支援を行っている。
- b. 教員として働いている本学卒業生へのインタビュー等を通して教員としての責務や専門的知識についての理解を深める指導をしている。
- c. 豊富な教員経験をもつゲストスピーカー（ゲスト・ティーチャー）を招き、教員という職務をより実感をもって身近に感じ理解していく指導をしている。

〔優れた取組〕

行政や卒業生、豊富な経験をもつ教員等、多様な人材と連携を行っている。これにより、学生は実際の経験を直接聞く機会に恵まれ、自らの適性に気づくとともに、将来に役立つ知識や実践的な理解を深めることができる。このように、多様な立場からの知見に触れる機会が体系的に確保されている。

〔改善の方向性・課題〕

卒業生と連絡のうえ、就職後の状況を把握し、サポートしている。また、事例として在学生にも一部紹介している。今後は卒業生が同級生以外でも気軽に話し合うことのできるネットワークづくりを進めていく必要がある。

基準項目 2-2-⑥

教職に真摯に向き合い、たとえ就職後であったとしても自己の適性と進路を深く考えられるように多様で複合的なカリキュラムを用意している。

〔現状〕

医療栄養学科では、栄養教諭とともに管理栄養士等の資格を取ること、健康スポーツ学科では、保健体育科教諭とともに JATI、NSCA 等のトレーナー資格、健康運動指導士、社会教育士等の資格を取得すること、医療福祉学科では、福祉科教諭とともに、社会福祉士、介護福祉士、保育士等の資格を取得すること等、基本的には個々の学科で取得可能な資格とタイアップすることを目指している。この方針により、履修者の適性を考えながら自身にとってベストな道を開拓するとともに、幅広い視野をもった教員を育成できるよう努めている。

〔優れた取組〕

教職資格のみならず、多様な資格の取得を奨励することで、学生の進路の多様性を担保している。資格取得後の進路は多岐にわたるため、複数の資格を有することは、将来の進路選択の幅を一層広げることにつながる。また、ライフスタイルの変化等により進路の再検討が必要となった場合にも柔軟に対応することが可能となる。このように、学生の多様なキャリア形成と長期的な職業生活を見据えた支援を行っている点は、本学の優れた取組といえる。

〔改善の方向性・課題〕

教職以外の職業に就職した卒業生が教職への転職を希望する場合における大学としての支援の確立が課題である。

課題解決のためには、まずは卒業生とのコミュニケーションの醸成が必要と考えており、教職教室においては、これまでは卒業生から教員に連絡をさせるようにしていたが、希望者に対しては本学から定期的に教員採用試験対策講座や研究会・同窓会を連絡する形が取れないか検討している（これまで、一部の希望者がお盆や連休等に参加）。

また、健康スポーツ学科においては、現在、教員採用試験が不合格となり臨時採用ないしは非常勤講師等へ就職した卒業生に対して、特別講座等の情報を提供し、参加できるようにしている。教職以外の職業に就職した卒業生が教職への転職を希望する場合においても同様に情報提供し、参加できるよう勧める方向で検討している。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1：教育実習の手引き

- ・資料 2 - 2 - 2 : 広国ポータルサイト
- ・資料 2 - 2 - 3 : 広国 LMS

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

本学では以下の3学科に教職課程を設置している。

健康科学部・医療福祉学科では「福祉」（高等学校教諭一種免許状）の取得を目指すとともに学科の特色を生かし、社会福祉士、介護福祉士、保育士等に関する様々な実践的科目を導入している。

健康科学部・医療栄養学科では、管理栄養士養成を基本にしなが、「栄養教諭一種免許状」の取得を目指している。

健康スポーツ学部・健康スポーツ学科では「保健体育」（中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状）の取得を目指している。

〔優れた取組〕

3学科に共通するのは「アクティブ・ラーニング」（PBL：問題解決型学習・反転授業・ディスカッション／ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・実習フィールドワーク・ICT活用双方向授業）及び積極的な「ICTの活用」である。

「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業に関しては、全学的に取り組んでおり、FD委員会を中心に頻回に全学対象の研修会を行い、授業の中で生かす実践を積み上げている。

具体的には「PBL (Project Based Learning;問題解決型学習)」「反転授業」「ディスカッション／ディベート」「グループワーク」「プレゼンテーション」「実習フィールドワーク」「ICT活用双方向授業 (LMS やクリッカーの利用)」「オープンエデュケーション (自施設または他施設で開発された教材の利用)」である。本学にはこのような教育手法に精通した教員が多数おり、教職課程においても、それらの教員の指導の下、アクティブ・ラーニングに積極的に取り組んでいる。

「ICT活用」においても、この分野に精通した情報系教員の助力を受けながら、教職課程の授業に取り入れている。現状としては「模擬授業」においてパワーポイントを使ってプレゼンテーションする試みや、実習校においてタブレット端末を活用した授業体験を実施している。

また、3学科それぞれ独自の長所・特色がある。

①健康科学部・医療福祉学科では「大学が独自に設定する科目」が特筆される。「ソーシャルワーク入門」では多様な社会福祉領域における基本と実践を学び、「社会保障Ⅰ」「社会保障Ⅱ」では社会保障の仕組みを理解する。「社会支援技術Ⅰ」では実践方法を学び、「社会的擁護Ⅰ」「社会的擁護Ⅱ」では、社会的養護を必要とする子どもたちの現状と課題を理解する。「保育原理」では保育の理念を学ぶ。以上、基本から応用、理念から技術へと科目が進行する形を採っている。なお、これらは学科の専門教育科目を教職課程カリキュラムに位置付けているものであり、卒業単位に算入されることで学生の負担軽減に繋がっている。

②健康科学部・医療栄養学科では、教職課程カリキュラムに位置付けている栄養に係る教育に関する科目「学校栄養教育論Ⅰ」「学校栄養教育論Ⅱ」が特筆さ

れる。「学校栄養教育論Ⅰ」では栄養教育の概要と栄養教諭の職務や使命・役割について特に食育や学校給食に焦点を当てて授業を行う。「学校栄養教育論Ⅱ」では、「学校栄養教育論Ⅰ」を基礎に置きつつ、さらに内容を実践に即して発展させている。特に地域における食育活動実践やボランティア活動につながる科目として重視されている。以上、基本から応用、理念から実践へと科目が進行する形を採っている。また、本学では長年にわたり小学校及び中学校で勤務していた栄養教諭免許を持つ管理栄養士がこれらの科目を担当しており、学校現場や地域の実情に即した授業を展開している。

③健康スポーツ学部・健康スポーツ学科では「大学が独自に設定する科目」が特筆される。「バイオメカニクス」では人間の身体の動きを科学的に分析する視点を得る。「スポーツ栄養学」ではスポーツによる健康づくりに欠かせない栄養学的知識と実践について学ぶ。「人体機能解剖学」では人体の構造と機能の系統的理解により身体運動の医学的基礎を学ぶ。「トレーニング論」では身体機能を向上させるトレーニングの方法と実際を学ぶ。医学や栄養学、さらに本学科の教職課程に密接に関わる「トレーニング論」が設定され、教職学生がより広い視野をもって学修を進められるよう配慮している。なお、これらは学科の専門教育科目を教職課程カリキュラムに位置付けているものであり、卒業単位に算入されることで学生の負担軽減に繋がっている。

〔改善の方向性・課題〕

教育実習、栄養教育実習先の確保と「ICT活用」のさらなる充実が課題ととらえている。この対応として、「教科教育法」や「ICT活用教育の理論と方法」に関連して、例えば「栄養教諭」養成課程において、「ロイロノート」（正式名：ロイロノート・スクール）の活用を予定している。なお、「ロイロノート」とは小学校などでICT教育やオンライン授業を行うためのアプリの一つである。これを2年次の「教育方法論」、3年次の「学校栄養教育論ⅠⅡ」「教育課程論」「道徳・特別活動論」「総合的な学習の時間論」、4年次の「栄養教育実習ⅠⅡ」「教育実践演習（栄養教諭）」で活用する。※道徳・特別活動論、総合的な学習の時間論については、P1の健康スポーツ学科とは科目名が異なる。

特に、「栄養教諭」養成課程における教育実習先は、文部科学省が推奨している大学設置地域である「呉市」の小中学校である。この呉市教育委員会で採用されているのが「ロイロノート」である。つまり、教育実習が充実したものとなるように、また学校支援活動に生かすためにも、有用と考える。

また、教職課程全体での課題としては、今後、各学科に電子黒板やデジタル教科書を本格的に導入して、より実践的な教育が行える環境を整備する。このことは学生の教職への実践力を高めるとともに、教育実習が学生個々にとって充実し、さらには将来の豊かな教職を目指すことを目的としている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：履修申請要領
- ・資料3-1-2：広島国際大学ホームページ「シラバスの利用」
- ・資料3-1-3：広島国際大学学内共有サイト「FD委員会学内専用ページ」

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

本学全体が目指す「地域に開かれた大学」というモットーにしたがって、諸学校・園を含む地域での交流活動、ボランティア活動を盛んに行っている。

教員の中には「スクールカウンセラー」を兼務しており、その教員が橋渡し役となって、学校・地域との交流を図る試みや、不登校の児童生徒へのメンタルフレンド派遣事業や学習支援活動を行う等、地域との交流・連携を図っている。

一方、学生の実践的指導力の育成には広島県教育委員会、広島市教育委員会、東広島市教育委員会、呉市教育委員会とも密接に連携し、指導頂いている。具体的には広島県・広島市・東広島市・呉市などの各教育委員会が実施している「大学生による学校支援活動」（名称は広島市教育委員会のもの。その他の教育委員会では名称は異なる）に参加している。校種としては、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校である。教員志望の大学生が各学校のニーズ（学習指導補佐・部活補佐・配慮を必要とする児童生徒への支援・教材作成補助ど）に合わせてマッチングされ、派遣されている。さらに、大学全体の取組として、「高大連携活動」「子ども向け体験講座」等を実施し、指導者、助言者として教員が参加している。

〔優れた取組〕

実践的指導力の養成に関する取組として、広島市教育委員会が設置する「教員等育成に関する協議会」への参加が挙げられる。同協議会においては、広島市の学校の現状や課題についての理解を深めるとともに、他の教職課程設置大学との情報共有および討議を行っており、これらの知見は本学における学生指導に大いに役立っている。また、本協議会は、単に学生の養成にとどまらず、教員採用後のキャリア・ディベロップメントまでを視野に入れた内容となっており、実践的指導力の育成に資するものとなっている。

同様の取組は、広島県、呉市、東広島市等の各教育委員会においても実施されている。地域によって名称は異なるものの、「教師塾」「未来教師セミナー」「学校公開」等の事業が行われており、本学の教職課程履修者もこれらに参加している。

また、本学教員は、近隣の複数の高等学校等において学校運営協議会委員を委嘱され、「社会に開かれた教育課程」の推進を支援するとともに、「地域と学校の協働」におけるコーディネートにも参画している。これに関連して、小・中学校等における防災教育の実践にも関わっており、その際には学生を同行させることで、学校現場のニーズや雰囲気を理解するとともに、自らの役割を考えながら他の教職員と協働するなど、学校現場におけるチームワークを学ぶ機会としている。

さらに、2025年8月には、黒瀬特別支援学校高等部フットサル部の練習において、健康スポーツ学部・健康スポーツ学科の学生がボランティアとして参加し、特別支援教育の現場における実践的な支援活動を経験した。本活動を通じて、学生は障害のある生徒への指導補助やコミュニケーションを実際に体験し、個々の教育的ニーズに応じた関わり方や支援の在り方について理解を深めることが

できた。なお、本活動については担当教諭より、本学学生の積極的な姿勢と教育的効果に対する評価および謝意が示されており、地域の教育現場と連携した実践的な教員養成の成果の一例となっている。

さらに、教員の資質向上および学生の学修支援のため、教育委員会主催の研修に加え、教育ネットワーク中国等が主催する講話やグループワークに参加している。これらには、広島県教育委員会および広島市教育委員会の担当者や、学校現場の校長および現職教員が講師として登壇し、教育現場の実情に基づく講話や質疑応答が行われている。

これらの取組を通じて、本学教員の教育に対する意識の向上を図るとともに、教員を志す学生の目的意識および教育に対する意欲の向上にもつながっている。教科教育に関しても同様に、教育委員会、教育センターおよび学校現場との連携を図りながら、教育実習が円滑に実施されるよう支援体制を整備している。

〔改善の方向性・課題〕

医療福祉学科の学生は社会福祉士などの国家試験を、医療栄養学科では管理栄養士の国家試験を受験するため、全学を挙げてのボランティア活動・地域交流活動、即ち、実践的指導力養成に関しての活動に参加できないことが課題である。

課題解決のためには時間の確保が必要であったことから、カリキュラム改訂に取り組んだ。結果、3年次、4年次の高学年次において実践的指導力養成に参画できる体制を確保し、履修生の満足度を向上させることができた。

今後、更なる改善を行い、また、採用試験時に模擬授業があれば、その場で実践できる力を身に付けさせる等、学生の学びが豊かで実践的な学びの機会を提供できるよう検討していきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：広島国際大学ホームページ「産官学連携・地域連携」
- ・資料3-2-2：広島市教育委員会ホームページ「教員等育成に関する協議会」

Ⅲ. 総合評価（全体を通じた自己評価）

健康科学部・医療福祉学科では「大学が独自に設定する科目」として「ソーシャルワーク入門」、「社会保障Ⅰ」、「社会保障Ⅱ」、「社会支援技術Ⅰ」、「社会的擁護Ⅰ」、「社会的擁護Ⅱ」、「保育原理」等を設定し、基本から応用、理念から技術へと科目を構成している。社会福祉士国家試験を受験する学生にとっては、教職課程を履修することの負担感は大きいと考えられるが、履修者の個別の指導・助言や教育相談をきめ細かく行うことで、意欲ある学生に対して履修を促す施策を継続する。

健康科学部・医療栄養学科では、栄養に係る教育に関する専門科目として、「学校栄養教育論Ⅰ」「学校栄養教育論Ⅱ」による学修を通し、栄養教諭として、各教科や総合的な学習の時間、特別活動（給食の時間・学級活動）における食に関する指導と、その評価ができるよう、基本から応用、理念から実践へと段階的に科目を構成しており、理解が深められる。管理栄養士国家試験を受験する学生にとっては、教職課程を履修することの負担感は大きいと考えられるが、履修者の個別の指導・助言や教育相談をきめ細かく行うことで、医療福祉学科の場合と同様に、意欲ある学生に対して履修を促す施策を継続する。

健康スポーツ学部・健康スポーツ学科では「大学が独自に設定する科目」として、「バイオメカニクス」、「スポーツ栄養学」、「人体機能解剖学」、「トレーニング論」が設定され、教職を目指す学生がより広い視野をもって学修を進められるよう配慮している。

全体としては、以下のように自己評価している。

教職課程教育の目的・目標については、ディプロマ・ポリシー等を踏まえて設定し、育成する教員像と合わせ、教職員間で共有するとともに学生に周知している。今後は、教職員間での共有の度合い、学生の教職課程教育の目的・目標の定着の度合いがより深化するような策を講じる必要がある。

教職課程に関する組織については、教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員の協働体制を構築している。教職課程を適切に実施するため、全学的な組織として、教職課程委員会、教職教室を設置している。

教職を担うべき適切な学生の確保・育成については、次のように評価できる。

アドミッション・ポリシーに沿って学生の募集や選考を行うとともに、教職を担うにふさわしい学生を確保し育成するため「養成する教員像」を掲げ、教職課程履修希望者にガイダンス等を実施している。「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の優秀な教員志望者を確保するため、教職の魅力伝えることを課題として捉えている。教職ガイダンスや教職科目の授業の中で卒業生の講話を行うなど、教職教育の一層の充実を図る必要がある。

履修を開始・継続するための基準を設定している。これまでは、教育実習・栄養教育実習履修条件に関して「基準」を明文化しておらず、状況に応じて判断してきたが、教育実習の手引きやシラバスに明文化することで、弊害を避ける対応を施した。

「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて当該教職課程に即した適切な規模の履修生を受け入れている。教職に就きたいという意味をもつ学生に対し、可能な限り受け入れる方向性を維持する必要がある。そのためには、実習校の確保が必要であり、大学と実習校の関係を良好に保ち続けることが課題となる。

教職課程での指導にあたって「履修カルテ」等を活用し、学生の適性や資質に応じ

た教職指導を行っている。深く考える授業を目指し、その学年で学修した教職と専門の科目を中心に振り返り、自己の成長と適性を見極め、キャリア形成に生かせるように履修カルテで指導している。

教職のキャリア支援については以下のように評価している。

文科省の資質能力を参考にしながら、学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。「教職概論」等の授業の中で、教員としての適性を自己評価する機会を設けている。具体的には、現職教員やそれに関わる方を「ゲストティーチャー」として招き、講話やグループワークを行うことで、学生に多面的・多角的な視点をもたせている。また、教職を志望する学生には、「体験」や「交流」等の教育に関するボランティア活動への積極的な参加を通して、教育や教員志望としての自己の意識を深め、考え方や感じ方を問い直す機会を提供している。一方で、これらの取組を教員採用に向けたキャリア教育へと接続し、教職への関心・意欲を一層高めていく必要がある。また、現在、近隣の小中高の要望に応じてボランティア活動を行っている。さらに、実習校やボランティア先との連携を一層進め、意欲の喚起や適性の把握に努める必要がある。

学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。正課外でも指導を行っているが、正課内への取り込みも検討しつつ、今後より一層推進する方針である。

教職に就くための各種情報を適切に提供している。教員採用試験の早期化や多様化等、変化する採用環境に適切に対応する必要がある。

教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。課外講座など教員の工夫により、学生間の教え合いが行われ、学生の「主体的・対話的で深い学び」に繋がっているが、ピアサポートクラブのような形で組織化する等、さらなる活性化が必要である。

キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。今後、教職に就く卒業生も増えていくと思われることから、教職に就いている卒業生のネットワークづくりに努める必要がある。

教職に真摯に向き合い、たとえ就職後であったとしても自己の適性と進路を深く考えられるように多様で複合的なカリキュラムを用意している。教職以外の職に就いた卒業生等の社会人が途中で教職に就くための支援方法も検討する必要がある。

教職課程カリキュラムについては、教職課程を開設している各学部・学科が教職教室と協働して工夫し、適切に編成され実施している。今後は、教育実習、栄養教育実習先の安定的確保と「ICT活用」のさらなる充実が課題ととらえている。電子黒板や生徒全員が各自タブレット等を使用し、デジタル教科書の本格的な導入により、より実践的な教育を行えるように大学での教育環境を整備する必要がある。

実践的指導力育成と地域の連携を、適切に行っている。卒業時に国家試験を受験する学科においては、国家試験対策との両立が課題であり、個別の丁寧な指導が求められる。

以上、自己点検の結果、各規準項目について課題はあるものの概ね基準に達していると自己評価している。

IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

本学の内部質保証体制の下、教職課程委員会を中心に、以下のプロセスを経て点検・評価を行った。

教職課程の自己点検・評価報告書の作成に当たっては、一般社団法人全国私立大学教職課程協会版の「教職課程自己点検評価基準」に基づき、三つの「基準領域」に即した「基準項目」ごとに、基準に係る「現状」、「優れた取組」、「改善の方向性・課題」の3項目について、自己点検評価を実施し、「教職課程自己点検・評価報告書」を作成した。

- 第1プロセス 「広島国際大学教職課程における内部質保証の方針」を策定し、本学の内部質保証体制の下、「教職課程委員会」が中心となり自己点検・評価・改善活動を組織的に行うことを、教職課程委員会において定めた。
- 第2プロセス 教職教室と教育・学生支援機構教務係において、法令由来事項の点検等を実施した。
- 第3プロセス 教職課程委員会において、自己点検・評価報告書の原案を作成し、各学科の自己点検・評価内容の確認を、教職課程委員会委員である教職課程設置学科の学科長へ依頼した。
- 第4プロセス 教職課程委員会において、各学科の自己点検・評価内容を調整の上、自己点検・評価報告書を完成させた。
- 第5プロセス 教職課程委員会において、自己点検・評価報告書を最終確認し、広島国際大学内部質保証委員会へ上程し、承認された。本報告書をホームページにおいて公表した。
- 第6プロセス 一般社団法人全国私立大学教職課程協会への提出手続きを行う。